

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
 項目番号61 ○日常的な外出支援
 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
 項目番号63 ○電話や手紙の支援
 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 グループホーム羽音

(ユニット名) 音

記入者(管理者)
氏名 草野 和子

評価完了日 2008年 7月 7日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	スタッフと家族に、アンケートの形で意見をもらい現在、新しい理念作成中。	○ スローガンとしての理念ではなく、スタッフ・利用者・家族の思いの込められた理念とし、共有して行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を皆で考えて作る中で、スタッフ1人1人が仕事に対する責任や夢を感じて欲しいと考えている。	○ 理念作成に取り組んだ事で、自分達がどんな思いを基盤にして仕事をするのかを見極められる様になりたい。1つ1つの仕事に意味が出てくると思う。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	今回の理念作成にあたり、家族の思い、スタッフの思いをお互いに確認し合うことができた。	○ ただ、事業所内に掲示して満足するのではなく、回覧板などを通じて地域の方々にも、『はのんが地域の中で、どの様に生活したいと考えているのか』を伝えて行きたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	回覧板を通じて、花火大会や救命救急講習や避難訓練などへの参加を呼びかけたりしている。『どなたでも笑顔で迎える』をモットーにして見学者などの受け入れをしている。出退社時の挨拶を励行している。	○ ただ待っているのではなく、事業所からの活動が大切なので、散歩のついでに公園のゴミ拾いをしてみた。今後も続けたい。あと、小学生の下校コースなので信号場所での見守り隊を試みようという案もあって検討中。外に出て顔見知りになる機会を増やしたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に属し、年2回のいわき大清掃に参加して地域の方々と共に活動したり、地元の神社の祭礼の手伝いをし、子供みこしの立ち寄り先にもなっている。回覧板で知った地元の行事にも、できるだけ参加する様に努めている。	○ 事業所側から積極的に外に出て働きかけて行く事が大切だと考えている。利用者さんが喜ぶので子供達との触れ合いの場を作っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	できていない。	○	あまり欲張らず、公園のゴミ拾いや草むしりなど、利用者の可能な範囲から始めてみようと思う。 AEDを購入し、回覧板にて地域の人達にもお知らせした。緊急時に利用してもらいたいと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価するにあたって、『より良いホームになる為に』自分達の仕事を見直す作業である事を1人1人伝えている。助言された事に関してはスタッフ・家族に報告し、改善に取り組んでいる。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録をスタッフには申し送りの形で、地域には回覧板の形で知らせている。家族にも請求書や、羽音通信の送付時に議事録を同封している。	○	運営推進会議のメンバーだけの話し合いになってしまうので、今後はスタッフも少しずつ参加する形にしてスタッフからも議題を提案できるようにしていきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	いわき市長寿介護課の介護相談員派遣事業を受け入れ、月に1回相談員の来訪をしてもらっている。その他、見学の要請なども随時受け入れ、数少ない接点を大切に考えている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	まだまだ認識の不足した分野であり、学ぶ場も少ない。現在、利用者で該当する方もいない為勉強不足である。	○	今後、研修などに参加していきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	主に管理者が研修に参加し、スタッフに伝えている。日常の中で、言葉が虐待となる事もスタッフに話している。	○	1対1の介助となった時に虐待行為は起きやすい。共通認識を持ったスタッフに育てて行くことが管理者の責任と考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>管理者が責任をもって行っている。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>いわき市長寿介護課の介護相談員派遣事業を受け入れ、毎月1回の相談員の来訪をもらっている。生活面での不満は主に家族経由で伝わる事があり、家族と相談しながら対応している。日常生活に関わるテーマについては直接意見を聞き取る。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p> <p>毎月、羽音通信を個々に作成し、請求書送付時に同封している。健康面やスタッフの異動に関しては面会時などに、その都度報告したり、緊急性のある事については、すぐに電話連絡して対応している。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>苦情の申し立てについての説明を契約時にきっちり行っている。意見箱も設けている。運営推進会議で出された意見に対しても検討されている。</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>スタッフ個々に、テーマに添ったアンケートを配り、1人1人の意見を汲み上げる努力をしている。アンケートの集計を更に、スタッフに戻し、最終的な統一見解を出す様になっている。スタッフからの提案も、アンケートの形で全員で検討している。</p>	○	『お悩み相談室』と云う時間を作り、少人数ずつ話し合う機会を作っている。介助法から人間関係に至るまで、何でも話し合える場として、今後も機会を作っていく予定でいる。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>管理者をフリーにして、常にフォローできる体制にしてる。利用者が重篤な状況になった時は、管理者が常駐する様にしている。現在は必要スタッフ数に余裕を持たせているが、常に不安材料はある。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者が常にフォローできる体制にしている。新人については、全てのシフトを1ヶ月以上かけて、マンツーマンで指導し、利用者が馴染める環境としている。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人の指導体制は整っている。スタッフのレベルアップについては、日々に業務の中で管理者がロールプレイングにしたり、申し送りにプリントを入れて伝える努力をしているが、段階的指導にはなっていない。</p>	○	<p>事業所外研修は会社として行なっていない為、スタッフ個人レベルでの勉強となっている。管理者として社内研修を系統だてて考えていきたい。ポイントの小冊子を作って教材とし、少人数ずつの研修をできればと思う。</p>
<p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>福島県認知症グループホーム連絡協議会を脱会したので交流の機会はない。</p>	○	<p>管理者レベルで交流のあるグループホーム同士で、スタッフの見学会を検討中。お互いのグループホームを歩き来てスタッフのレベルアップ、事業所運営のレベルアップを考えている。</p>
<p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>利用者・スタッフ共々、事業所の建物の中に閉じ込めるのではなく、外出したり、スタッフの提案を実行できる機会を作っている。『お悩み相談室』を少人数ずつで開き、何でも話せる環境作りに取り組んでいる。</p>	○	<p>現在、スタッフ数も確保できたので、月に1回の合同ミーティングの希望を検討している。年2回位は仕事を離れての慰労会を開く。(今年は2月に1回、成人式の祝として集まった)</p>
<p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個々の素質とやる気の問題でもあるが、シフトの中で個人の夢や希望に添って応える努力はしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)	/	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	○	人と人との関わりがまず一番大切な事だと云う想いをなくさない様にしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事など一緒に過ごす時間を持てる様に機会を作っている。預けっぱなしにならない様、家族との連絡を密にし、受診なども協力しながら行っている。家族からの要望についても話し合いの上、対応している。家族が来やすい雰囲気作りを心掛けている。	○	行事などで家族参加する際、お客様として接するのではなく、スタッフと一緒に準備に加わってもらえる様な方向に持って行きたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会の際、気兼ねなく家族と共に過ごせる空間作りに気を配っている。家族の絆が切れない様、日頃から家族との連絡を密にし、外出や外泊、面会へと繋げている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話でのやりとりを介助したり、手紙の代読、葉書の代筆などしている。	○	本人が希望される馴染みの場所や人との出会いを、ドライブなどを兼ねて支援したい。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者が孤立しない様、気配りしている。又、仲の良い利用者同士で買い物に出掛けたり、一緒に入浴したりできる様、配慮している。お互いの相性を見て、食事の席やソファの席も考えている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も電話や葉書のやりとりのおつき合いがある。死亡退居された方の家族が今でも来訪してくれたり、ボランティア的なおつき合いがある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の訴えを傾聴し、会話の中から思いを感じ取るように心掛けている。できる限り、のびのびと自由に過ごしてもらえればと思って取り組んでいる。	○ スタッフから強制はしたくないので、思い思いの過ごし方を尊重したい。時には本人の意向を家族に対して代弁する事も必要と考えている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の実調記録や、センター方式による生活歴を支援経過に挿入し、把握している。会話のテーマにしたり、性格面を考えて言葉使いや、付き合い方に配慮している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	スタッフ間の申し送りを記述式にし、もれがない様に細部まで伝えている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月、担当スタッフを中心に聞き取りし、モニタリングしている。日常の中でもスタッフの方から疑問や提案が出てくるのでその都度相談して対応策を決めている。家族に対しても面会時などに報告し、意見を求めている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングや日々のスタッフからの報告や提案により、その都度変更が必要な点は申し送りにて現場に伝えている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のモニタリングでの見直し。 日常の変化や会話、出来事を重点的に各々の支援経過に記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)	/		
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域包括支援センターや社会福祉協議会などにも相談して、積極的にボランティアの受け入れをしている。年2回の避難訓練や、定期的な救命救急講習を開き、消防署の協力を得ている。地元小・中学校のボランティア研修や見学を受け入れている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他施設への転出などの際、情報交換をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の入退居に関わる際に必要を感じた時は地域包括支援センターに相談し、助言されている。日常的には、あまり例はない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1人1人が、しっかりした主治医を持ち、緊急時の医療連携もできている。利用者の半数は往診体制をとっていて、日々の変化についても、すぐに指示を仰げる状態である。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医療面、生活面の変化については家族と医師への報告をこまめに行っている。往診や受診時にもスタッフが付き添い、報告・相談している。		
45			
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族のフォローをしながら、頻りに様子を見に行き状態把握に努めている。入退院の際は管理者が家族に同行し、医師からの注意事項やリハビリ内容などについて指示を受けている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	必要と思われる時期に、家族との話し合いを度々もち、事業所で出来る事の限界と主治医の意向をきっちりと伝え、家族の心の準備を手伝っている。話し合いの状況と方向性、現場での対応についてスタッフに日々、伝え、共有するよう努めている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	最期の時まで、清潔にすごし、穏やかな時間を過ごせる様に介助すると云う事をチームとして貫いて行きたいと考えている。終末期は、医療面より精神面に重点を置き、家族の交流をメインにしている。昨年は3名の方を看取らせていただいた。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え先は病院、もしくは他施設が主である。十分な情報提供を行い、家族・本人共にスムーズに移行できる様、送迎に関わる支援も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉使いや声かけのトーンに気を付けている。個人情報の管理に配慮している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	繰り返しの問いかけにも、その都度何度でも答える様にしている。日々の協働も、強制にならないよう、本人の能力の範囲で行ない、その他本人の希望なども引き出す様に努めている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうしても業務プログラムを追って、スタッフのペースになりがち。現在、プログラムの見直し中。業務内容を整理して、利用者へ寄り添って共に過ごせる時間を作り出そうと考えている。	○	1人1人のペースに合わせて、もっと自由に過ごせる様にしたい。業務プログラムを追うだけのスタッフにならない様、豊かな発想で仕事ができる環境作りをしたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)	本人の希望で出張散髪に来てもらっている。家族と美容室に行ったり、毎日、化粧をする方もいる。服装は、ほとんど自分で選ばれる。介助の必要な方には、何枚か見せて選んでもらう。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>現在、プログラム内容の見直し中で、共に過ごし協働する場面をもっと多くしたいと考えている。スタッフ個々の発想を生かし、スタッフ同士で案を出し合いながら楽しく仕事をしてもらいたい。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>予算の問題もあるが、飲み物と食材のバリエーションを、もう少し増やしたいと思う。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している（認知症対応型共同生活介護）</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）</p>	○	<p>「外に出れば良し」ではなく、内容的にスタッフの発想や工夫がもっと盛り込まれて行く事を期待している。今後は1対1の過ごし方をもっと大切にしていきたい。その日の天候で予定を決める位の柔軟性がスタッフに求められる。</p>
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している（認知症対応型共同生活介護）</p>	○	<p>スタッフ全員がフォローし合うと云う事が当たり前になってきて、外出が日常の自然な形になってきた時、もっと色々な事が可能になると期待している。</p>
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている（認知症対応型共同生活介護）</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している（認知症対応型共同生活介護）</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		<p>日常的に管理者より拘束の定義について指導されており、身体拘束はしていない。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	見守りを重視したプログラムになっているにも関わらず、一人で出掛けてしまうのは目配りの不足。止めるのではなく、一緒に散歩するなどの柔軟な対応が望まれる。
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	マニュアルは作成されているが、日常の中で『こんな時、どうするか』というロールプレイングなどによる指導を繰り返す必要がある。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	地震や水害については対策のみで、スタッフの訓練をしていないので、係りの方で年間計画にしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	管理者と家族で話し合っている。 日常の事故については家族に報告・謝罪し、対応策を伝えている。医療面についても往診の方が多いので、医師からの指示を家族に報告している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	起床時と入浴前、1日2回のバイタルチェックを行なっている。その日その日の変化についてはスタッフ間で申し送り、情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の処方箋を支援経過にファイルし、スタッフ全員が確認できる。薬の仕分けについてもスタッフ全員がたずさわると指導されており、薬の内容のチェックは三重にされている。服薬後の口腔内の確認も個々に指導されている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜や牛乳をメニューに多く入れ、レクリエーションでの体操や個々のリハビリを励行している。排便コントロールも主治医の指示のもと、個々に決められ実践されている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを行なっている。 義歯については週3回、ポリデント洗浄している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者は調理師免許をもっており、栄養バランスについては協力病院の栄養士の指導を受けている。 水分量は1日1.5～2Lを目安にして提供している。 水分摂取を拒否する方の対応に一番苦慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、特に気を付けている。食前の手の消毒や、外出後の手洗い・うがいの励行。特に冬季は外出を控え、ユニットの交流も中止している。行政通達なども現場に掲示して、日常の注意点をスタッフに指導している。夏季は食材の管理を徹底している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や食器は乾燥機、布巾類はハイター消毒している。食材は細めに購入し、賞味期限を確認している。月に1回、冷蔵庫の清掃を行なう。野菜も泥が冷蔵庫内に落ちない様、袋詰めになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりに花やベンチを置き、明るいイメージにしている。玄関ドアもオープンにし、季節の花を生けて好印象を持ってもらえるよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁に手作りカレンダーや行事の写真などを掲示して、生活感があふれている。全てに手すりを取り付け、安全と使いやすさに配慮されている。	○	ホールに限らず、「夏だ」「冬だ」と季節のインパクトのある物を置いたり、飾ったり、工夫してみたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングがテーブル・ソファ・こたつ部屋と様々に配置されているので、自由に好きに使用している。ベランダのベンチで畑や景色を眺めていたり、こたつ部屋で横になったりされている。中庭や畑にもベンチを配している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テレビや使い慣れた物品、好みの本などを置かれている。 入居時にも見慣れた物品の持ち込みをお願いしている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>利用者の体感を確認しながら調節している。朝と清掃時は必ず換気を行なう。各所に温湿度計を置いて確認している。 トイレや台所の臭いに気をつけ、ゴミの処理も細めに行なう。 脱衣室と浴室の温度管理もされている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全第一の設計で、全てに手すりを取り付け、ドアも引き戸になっている。廊下も広く、車イスが自操しやすい。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>居室の入口にスタッフとのペア写真を飾り、自室の確認に役立っている。混乱を起こしやすい方の居室には日めくりカレンダーをかけたたり、1日のスケジュールを書いて貼ったりしている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダ・玄関・中庭・畑と各所にベンチを配置して、どこでも休んだり集ったりできる。 裏庭は畑になっていて、眺めたり、収穫を楽しんだりできる。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他 ()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他 ()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他 ()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他 ()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない <input type="radio"/> ⑤その他 ()
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない <input type="radio"/> ⑤その他 ()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない <input type="radio"/> ⑤その他 ()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない <input type="radio"/> ⑤その他 ()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①利用者と一緒に積極的に外出して過ごしている。
- ②利用者・家族・スタッフの関係が良好である。
- ③レクリエーションやリハビリ、ホールの掲示物など頑張っている。
- ④季節に合った行事（花見・花火・バーベキュー・芋煮会・紅葉狩り・クリスマス会）を企画している。
- ⑤利用者の得意な事を生かして、スタッフとの協働に努めている。

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
 項目番号61 ○日常的な外出支援
 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
 項目番号63 ○電話や手紙の支援
 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 グループホーム羽音

(ユニット名) 羽

記入者(管理者)
氏名 草野 和子

評価完了日 2008年 7月 7日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	スタッフと家族に、アンケートの形で意見をもらい現在、新しい理念作成中。	○ スローガンとしての理念ではなく、スタッフ・利用者・家族の思いの込められた理念とし、共有して行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を皆で考えて作る中で、スタッフ1人1人が仕事に対する責任や夢を感じて欲しいと考えている。	○ 理念作成に取り組んだ事で、自分達がどんな思いを基盤にして仕事をするのかを見極められる様になりたい。1つ1つの仕事に意味が出てくると思う。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	今回の理念作成にあたり、家族の思い、スタッフの思いをお互いに確認し合うことができた。	○ ただ、事業所内に掲示して満足するのではなく、回覧板などを通じて地域の方々にも、『はのんが地域の中で、どの様に生活したいと考えているのか』を伝えて行きたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	回覧板を通じて、花火大会や救命救急講習や避難訓練などへの参加を呼びかけたりしている。『どなたでも笑顔で迎える』をモットーにして見学者などの受け入れをしている。出退社時の挨拶を励行している。	○ ただ待っているのではなく、事業所からの活動が大切なので、散歩のついでに公園のゴミ拾いをしてみた。今後も続けたい。あと、小学生の下校コースなので信号場所での見守り隊を試みようという案もあって検討中。外に出て顔見知りになる機会を増やしたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に属し、年2回のいわき大清掃に参加して地域の方々と共に活動したり、地元の神社の祭礼の手伝いをし、子供みこしの立ち寄り先にもなっている。回覧板で知った地元の行事にも、できるだけ参加する様に努めている。	○ 事業所側から積極的に外に出て働きかけて行く事が大切だと考えている。利用者さんが喜ぶので子供達との触れ合いの場を作っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>あまり欲張らず、公園のゴミ拾いや草むしりなど、利用者の可能な範囲から始めてみようと思う。</p> <p>AEDを購入し、回覧板にて地域の人達にもお知らせした。緊急時に利用してもらいたいと考えている。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	<p>運営推進会議のメンバーだけの話し合いになってしまうので、今後はスタッフも少しずつ参加する形にしてスタッフからも議題を提案できるようにしていきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>今後、研修などに参加していきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	<p>1対1の介助となった時に虐待行為は起きやすい。共通認識を持ったスタッフに育てて行くことが管理者の責任と考えている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>管理者が責任をもって行っている。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>いわき市長寿介護課の介護相談員派遣事業を受け入れ、毎月1回の相談員の来訪をもらっている。生活面での不満は主に家族経由で伝わる事があり、家族と相談しながら対応している。日常生活に関わるテーマについては直接意見を聞き取る。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p> <p>毎月、羽音通信を個々に作成し、請求書送付時に同封している。健康面やスタッフの異動に関しては面会時などに、その都度報告したり、緊急性のある事については、すぐに電話連絡して対応している。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>苦情の申し立てについての説明を契約時にきっちり行っている。意見箱も設けている。運営推進会議で出された意見に対しても検討されている。</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>スタッフ個々に、テーマに添ったアンケートを配り、1人1人の意見を汲み上げる努力をしている。アンケートの集計を更に、スタッフに戻し、最終的な統一見解を出す様になっている。スタッフからの提案も、アンケートの形で全員で検討している。</p>	○	『お悩み相談室』と云う時間を作り、少人数ずつ話し合う機会を作っている。介助法から人間関係に至るまで、何でも話し合える場として、今後も機会を作っていく予定でいる。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>管理者をフリーにして、常にフォローできる体制にしてる。利用者が重篤な状況になった時は、管理者が常駐する様にしている。現在は必要スタッフ数に余裕を持たせているが、常に不安材料はある。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者が常にフォローできる体制にしている。新人については、全てのシフトを1ヶ月以上かけて、マンツーマンで指導し、利用者が馴染める環境としている。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人の指導体制は整っている。スタッフのレベルアップについては、日々に業務の中で管理者がロールプレイングにしたり、申し送りにプリントを入れて伝える努力をしているが、段階的指導にはなっていない。</p>	○	<p>事業所外研修は会社として行なっていない為、スタッフ個人レベルでの勉強となっている。管理者として社内研修を系統だてて考えていきたい。ポイントの小冊子を作って教材とし、少人数ずつの研修をできればと思う。</p>
<p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>福島県認知症グループホーム連絡協議会を脱会したので交流の機会はない。</p>	○	<p>管理者レベルで交流のあるグループホーム同士で、スタッフの見学会を検討中。お互いのグループホームを歩き来てスタッフのレベルアップ、事業所運営のレベルアップを考えている。</p>
<p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>利用者・スタッフ共々、事業所の建物の中に閉じ込めるのではなく、外出したり、スタッフの提案を実行できる機会を作っている。『お悩み相談室』を少人数ずつで開き、何でも話せる環境作りに取り組んでいる。</p>	○	<p>現在、スタッフ数も確保できたので、月に1回の合同ミーティングの希望を検討している。年2回位は仕事を離れての慰労会を開く。(今年は2月に1回、成人式の祝として集まった)</p>
<p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個々の素質とやる気の問題でもあるが、シフトの中で個人の夢や希望に添って応える努力はしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)	/	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	○	人と人との関わりがまず一番大切な事だと云う想いをなくさない様にしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事など一緒に過ごす時間を持てる様に機会を作っている。預けっぱなしにならない様、家族との連絡を密にし、受診なども協力しながら行っている。家族からの要望についても話し合いの上、対応している。家族が来やすい雰囲気作りを心掛けている。	○	行事などで家族参加する際、お客様として接するのではなく、スタッフと一緒に準備に加わってもらえる様な方向に持って行きたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会の際、気兼ねなく家族と共に過ごせる空間作りに気を配っている。家族の絆が切れない様、日頃から家族との連絡を密にし、外出や外泊、面会へと繋げている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話でのやりとりを介助したり、手紙の代読、葉書の代筆などしている。	○	本人が希望される馴染みの場所や人との出会いを、ドライブなどを兼ねて支援したい。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者が孤立しない様、気配りしている。又、仲の良い利用者同士で買い物に出掛けたり、一緒に入浴したりできる様、配慮している。お互いの相性を見て、食事の席やソファの席も考えている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も電話や葉書のやりとりのおつき合いがある。死亡退居された方の家族が今でも来訪してくれたり、ボランティア的なおつき合いがある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の訴えを傾聴し、会話の中から思いを感じ取るように心掛けている。できる限り、のびのびと自由に過ごしてもらえればと思って取り組んでいる。	○	スタッフから強制はしたくないので、思い思いの過ごし方を尊重したい。時には本人の意向を家族に対して代弁する事も必要と考えている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の実調記録や、センター方式による生活歴を支援経過に挿入し、把握している。会話のテーマにしたり、性格面を考えて言葉使いや、付き合い方に配慮している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	スタッフ間の申し送りを記述式にし、もれがない様に細部まで伝えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月、担当スタッフを中心に聞き取りし、モニタリングしている。日常の中でもスタッフの方から疑問や提案が出てくるのでその都度相談して対応策を決めている。家族に対しても面会時などに報告し、意見を求めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングや日々のスタッフからの報告や提案により、その都度変更が必要な点は申し送りにて現場に伝えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のモニタリングでの見直し。 日常の変化や会話、出来事を重点的に各々の支援経過に記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)	/		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域包括支援センターや社会福祉協議会などにも相談して、積極的にボランティアの受け入れをしている。年2回の避難訓練や、定期的な救命救急講習を開き、消防署の協力を得ている。地元小・中学校のボランティア研修や見学を受け入れている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他施設への転出などの際、情報交換をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の入退居に関わる際に必要を感じた時は地域包括支援センターに相談し、助言されている。日常的には、あまり例はない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45			
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え先は病院、もしくは他施設が主である。十分な情報提供を行い、家族・本人共にスムーズに移行できる様、送迎に関わる支援も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉使いや声かけのトーンに気を付けている。個人情報の管理に配慮している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	繰り返しの問いかけにも、その都度何度でも答える様になっている。日々の協働も、強制にならないよう、本人の能力の範囲で行ない、その他本人の希望なども引き出す様に努めている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうしても業務プログラムを追って、スタッフのペースになりがち。現在、プログラムの見直し中。業務内容を整理して、利用者へ寄り添って共に過ごせる時間を作り出そうと考えている。	○	1人1人のペースに合わせて、もっと自由に過ごせる様にしたい。業務プログラムを追うだけのスタッフにならない様、豊かな発想で仕事ができる環境作りをしたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)	本人の希望で出張散髪に来てもらっている。家族と美容室に行ったり、毎日、化粧をする方もいる。服装は、ほとんど自分で選ばれる。介助の必要な方には、何枚か見せて選んでもらう。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>現在、プログラム内容の見直し中で、共に過ごし協働する場面をもっと多くしたいと考えている。スタッフ個々の発想を生かし、スタッフ同士で案を出し合いながら楽しく仕事をしてもらいたい。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>予算の問題もあるが、飲み物と食材のバリエーションを、もう少し増やしたいと思う。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している（認知症対応型共同生活介護）</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）</p>	○	<p>「外に出れば良し」ではなく、内容的にスタッフの発想や工夫がもっと盛り込まれて行く事を期待している。今後は1対1の過ごし方をもっと大切にしていきたい。その日の天候で予定を決める位の柔軟性がスタッフに求められる。</p>
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している（認知症対応型共同生活介護）</p>	○	<p>スタッフ全員がフォローし合うと云う事が当たり前になってきて、外出が日常の自然な形になってきた時、もっと色々な事が可能になると期待している。</p>
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている（認知症対応型共同生活介護）</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している（認知症対応型共同生活介護）</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		<p>日常的に管理者より拘束の定義について指導されており、身体拘束はしていない。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	見守りを重視したプログラムになっているにも関わらず、一人で出掛けてしまうのは目配りの不足。止めるのではなく、一緒に散歩するなどの柔軟な対応が望まれる。
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	マニュアルは作成されているが、日常の中で『こんな時、どうするか』というロールプレイングなどによる指導を繰り返す必要がある。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	地震や水害については対策のみで、スタッフの訓練をしていないので、係りの方で年間計画にしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、特に気を付けている。食前の手の消毒や、外出後の手洗い・うがいの励行。特に冬季は外出を控え、ユニットの交流も中止している。行政通達なども現場に掲示して、日常の注意点をスタッフに指導している。夏季は食材の管理を徹底している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や食器は乾燥機、布巾類はハイター消毒している。食材は細めに購入し、賞味期限を確認している。月に1回、冷蔵庫の清掃を行なう。野菜も泥が冷蔵庫内に落ちない様、袋詰めになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりに花やベンチを置き、明るいイメージにしている。玄関ドアもオープンにし、季節の花を生けて好印象を持ってもらえるよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁に手作りカレンダーや行事の写真などを掲示して、生活感があふれている。全てに手すりを取り付け、安全と使いやすさに配慮されている。	○	ホールに限らず、「夏だ」「冬だ」と季節のインパクトのある物を置いたり、飾ったり、工夫してみたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングがテーブル・ソファ・こたつ部屋と様々に配置されているので、自由に好きに使用している。ベランダのベンチで畑や景色を眺めていたり、こたつ部屋で横になったりされている。中庭や畑にもベンチを配している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テレビや使い慣れた物品、好みの本などを置かれている。</p> <p>入居時にも見慣れた物品の持ち込みをお願いしている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>利用者の体感を確認しながら調節している。朝と清掃時は必ず換気を行なう。各所に温湿度計を置いて確認している。</p> <p>トイレや台所の臭いに気をつけ、ゴミの処理も細めに行なう。</p> <p>脱衣室と浴室の温度管理もされている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全第一の設計で、全てに手すりを取り付け、ドアも引き戸になっている。廊下も広く、車イスが自操しやすい。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>居室の入口にスタッフとのペア写真を飾り、自室の確認に役立っている。混乱を起こしやすい方の居室には日めくりカレンダーをかけたたり、1日のスケジュールを書いて貼ったりしている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダ・玄関・中庭・畑と各所にベンチを配置して、どこでも休んだり集ったりできる。</p> <p>裏庭は畑になっていて、眺めたり、収穫を楽しんだりできる。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない <input type="radio"/> ⑤その他 ()
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない <input type="radio"/> ⑤その他 ()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない <input type="radio"/> ⑤その他 ()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない <input type="radio"/> ⑤その他 ()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①利用者と一緒に積極的に外出して過ごしている。
- ②利用者・家族・スタッフの関係が良好である。
- ③レクリエーションやリハビリ、ホールの掲示物など頑張っている。
- ④季節に合った行事（花見・花火・バーベキュー・芋煮会・紅葉狩り・クリスマス会）を企画している。
- ⑤利用者の得意な事を生かして、スタッフとの協働に努めている。